

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	鈴木ヘルスケアサービス (株)	代表者	鈴木 則成	法人・事業所の特徴	ご利用者の地縁を守り、慣れ親しんだ地域・居場所で生活を続けられるようお手伝いします。ご本人の思いや願いに寄り添い、24時間365日「その人らしい暮らし」を支え、「通い」「訪問」「お泊まり」の3つの基本サービスを組み合わせご利用いただけます。また、どのサービスにおいても、顔馴染みのスタッフがサービスをご提供するため、知らないスタッフが急に自宅に来たなどという不安もなく、安心してご利用いただけます。
事業所名	小規模多機能ホーム 鈴の郷	管理者	常 奈緒美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	人	1人	人	7人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	継続してケース会議の開催にてケース内容の検討、見直しをするとともに事業所内に関する提案をより容易に発信把握できるような様式を普及させる。	本人家族、スタッフから見た必要な点がかすんで固まらないままケアの開始となることもある。	特になし	情報収集をしっかりと行ってから話合いの場をもっと持つ、最初になるまでプランの作成しておく。
B. 事業所のしつらえ・環境	施設外側の使い方の再検討、利用者様の作品等を保存した状態で外に掲示できる工夫を検討する。	改善に至らず。	特になし	コロナ禍ですが季節の花の植え付けや花壇等の整備を行い地域の方が入り易い環境を整える。
C. 事業所と地域のかかわり	自治会回覧へ広報を出し地域の方が出入りいただける行事の企画など地域の方が鈴の郷に来て頂ける機会を増やす。	コロナ禍の為行事等の企画が出来ていない。	特になし	コロナ禍の中ですが運営推進会議(書面)を引き続き行いながら情報の共有、交換を行って行きます。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	鳥居本外の情報収集力がほぼないので地区外の民生委員さんと関係づくりから始め、社会資源をリサーチしていく。	コロナ禍により連携できていません。	特になし	地域包括に対してもっと情報をいただけるよう申請していく。地域包括や自治会長、民生委員ともっと連携する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議に出てきてもらえる研修会など企画するとともにそれを広報で発信していく形ができるように進めて行く。	コロナ禍の為書面開催での活動報告となっています。	特になし	地域の方との接する機会が少ないが今後も出来る範囲で家族、地域の方との交流を継続して行う。
F. 事業所の防災・災害対策	防災士、警察官、消防士の方に研修の開催のお願いをし地域の方にも参加を募る。	コロナ禍の為実施出来ていません。	特になし	専門職の方がの研修開催は引き続き厳しい環境ですが社内研修等(Web)研修に積極的に参加していく。